

市長就任のごあいさつ



久喜市長 梅田修一

このたびの市長選挙におきまして、多くの市民の皆様からご信任を賜り、久喜市政をお預かりすることになりました。

多くの市民の皆様からお寄せいただきました「久喜市をもっと良くする」、「新しく、久喜らしくチェンジ」に対する期待の大きさを実感するとともに、市政を担う責任の重さに身の引き締まる思いであります。

久喜市は、平成22年3月23日の合併から9年目を迎えます。

したが、これまで、鉄道の利便性やアクセスのよい高速道路網を有する恵まれた都市環境のもと、市民の皆様と行政との協力により、文化田園都市として発展してきました。

今日までご尽力いただいた関係者の皆様に敬意を表し、感謝申し上げます。

私は、未来の久喜市も多くの人が賑わう、埼玉県東北部の中心として発展させていきたいと考えており、次の世代がずっと久喜市に住み続けたいと思えるような、魅力あるまちづくりを目指して、市政運営に全力で取り組んでまいります。

現在、我が国では、人口減少社会が到来しており、久喜市においても人口減少や高齢化が進んでおります。そのようなか中、私は、未来を見据えたまちづくりへの政策転換が今こそ必要であると考えており、これから市長として、「子どもたちの未来が輝く久喜市を創ること」、「活気のある久喜市を創ること」、「シニア世代が更に活躍する久喜市を創ること」の3つの柱を中心

に、まちづくりに取り組む決意であります。

久喜市は、圏央道の全線開通や、上野東京ラインの開通をはじめとする鉄道の利便性の向上など、交通インフラに恵まれており、この、本市の持つ地の利を最大限に生かし、市内のそれぞれの地区に即した成長戦略が必要であると考えております。

具体的には、久喜地区においては、駅前を中心市街地の都市機能を高め、賑わいを創出すること、菖蒲地区においては、東北自動車道や圏央道などの高速道路網の要衝であることを生かし、物流拠点の中核として整備すること、栗橋地区においては、日光街道の宿場町、栗橋関所等の豊富な歴史資源を発信していくこと、鷲宮地区においては、鷲宮神社やコスモスふれあいロード等たくさんの方々の地域資源を活用していくことなどにより、更に久喜市を暮らしやすく、子育てしやすいまちとして発展させてまいりたいと考えております。

私は、久喜市が更なる飛躍を遂げるため、「変わろうくき、変えようくき、オールくきでチェンジ」の精神で、旧1市3町、あらゆる世代、あらゆる職業の垣根を越えて、

オールくきで未来につながるまちづくりを推進し、久喜市をもっと良くしてまいります。

私の座右の銘であります「和をもって貴しとなす」のように、市内各地区の調和を大切にし、久喜市に住んで良かった、久喜市に住み続けたいと思っただけ、パランスの取れたまちづくりに向けて、全力で取り組んでまいります。



▲初登庁の様子